

2/22

生いたちの記

ぼくは昭和四十七年五月十九日に田中産婦人科というところで生まれました。しかし、決して安全に生まれました訳ではありません。母は、出産予定日を二週間以上過ぎ、これ以上大きくなると危険なので生まれる三日前に入院し点滴を受けてやると生まれたのが僕です。怪死産だったのでも先生や看護婦さん達の気びんな処置で助かったのです。そんな状態で生まれましたけど、スクス

No.

No.

クと育ちミルクもよくもよく飲み、一才の誕生日をむかえるころには歩き出しました。幼稚園に入る前までは近くに男の子がいなかったのでも女の子と遊んだり、一人でよく遠くまで歩いてあちらこちらへと興味のある所へ出かけてお母さんによく心配をかけました。しかし、よくねむり、病気もしなかったのでもその点では心配はかけませんでした。幼稚園はあおい幼稚園で初めて団体生活を送るころになつたため、すぐには友達づき

No.

合いも出来ませんでした。そのため一人でと
 ぼとぼと歩いたり、自分一人で遊んでいまし
 た。また友達とあまりつき合わなかったせい
 か、大きい子に目をつけられてたびたび泣か
 されていきました。がその生活の中でもそうじ
 をすることは大好きでたびたび先生にほめら
 れていました。けれども結極、卒業するまで
 友達をつくることができませんでした。今思
 い出すと「もっと友達をつくれればよかった
 と後悔します。

No.

やがて、幼稚園を卒業して小学校に入学し
 ました。一年生になりました。時「学校ってどんな
 ことをするのだろう」と言う不安な気持ちで
 いっぱいでした。が友達といっしょに勉強し
 たり遊んだりして、いるうちにその気持ちがあ
 たりとび、学校へ行くのが楽しくて楽しくてし
 ようがありました。ただし体育は別です。二
 年生、一年生の時に比べて性格がコロッと変
 ったようにです。友達とつき合わなくなった
 り、本を読み始めたり、自分で少し大きくな

No.

な、たかろかなと思、ています。三年生の時
 始めてのクラスがえで胸があくわくしました
 もう三年生だからそれなりに頑張ろうとう気
 持ちで一年間乗りこむつもりだったけれども
 悪いことばかり続きました。ぼくにと、て三
 年生と言う学年は心の成育が止まったように
 感じられました。四年生、思い出がたくさん
 あった時期でもありました。しかし、勉強な
 どは、三年生同様でした。しかし、思い出が
 たくさんあるだけに四年生にもどりたいもど

No.

りたいと思うことがたびたびあります。五年
 生、クラスがえのおかげで頭、身心が大きく
 変動しました。作文や発表、学習の進めなど
 今まで心の中にあ、たいやみな心がすべてふ
 っこんでしま、たようです。しかし始め方は
 この方針になれずこのやり方がいやでしょう
 がありませんでした。が函親のはげましで、
 くじけては何事もだめだ、と思、中ごろまで
 この方針に絶えてきました。このしごきは中
 学校に入、た時後梅しなくてすむだろう。六

年生になると、もう後悔するようないや
めようこ心に決めました。現在多少忘^大れ^意て^通は
ない^バけれど、テストや勉強をし、かりして立
派な人間として生きたいです。

これからの人生は一生かけがえの無いもの
にして、自分がいなければだめだと言う心が
まえをしていきたい。

²⁸ 明るい気持ちを持ち、それを前向きに押し
あさないと、とリリやういよ。